

# 柏市地方創生総合戦略

平成 28 年 3 月策定

平成 29 年 10 月改訂

令和元年 12 月改訂

柏 市



# 目次

<b>I. 柏市地方創生総合戦略の策定について</b> .....	<b>1</b>
1. 柏市地方創生総合戦略について .....	1
2. 位置付け .....	1
3. 国・千葉県の総合戦略との関係 .....	1
4. 柏市第五次総合計画との関係 .....	3
5. 取組期間 .....	4
<b>II. 柏市人口ビジョン（要約）</b> .....	<b>5</b>
II-1. 人口動態に関する現状・課題と影響 .....	5
1. 人口動態の現状 .....	5
2. 将来人口推計 .....	6
3. 人口動態の影響 .....	6
II-2. 人口の将来展望 .....	7
1. 課題 .....	7
2. 目指すべき方向性 .....	7
3. 人口の将来展望 .....	7
<b>III. 柏市地方創生総合戦略</b> .....	<b>8</b>
III-1. 市総合戦略で目指す姿と構成 .....	8
1. 目指す姿 .....	8
2. 構成と体系 .....	13
III-2. 市総合戦略の基本目標 .....	15
基本目標1 柏市への新しいひとの流れをつくる .....	15
1. 数値目標 .....	15
2. 基本的方向（施策の実現によって目指す姿） .....	15
3. 具体的な事業と重要業績評価指標（KPI） .....	16
基本目標2 柏市の若い世代の出産・子育ての希望をかなえる .....	18
1. 数値目標 .....	18
2. 基本的方向（施策の実現によって目指す姿） .....	18
3. 具体的な事業と重要業績評価指標（KPI） .....	19
基本目標3 柏市の産業を活性化し、安定した雇用を創出する .....	22
1. 数値目標 .....	22
2. 基本的方向（施策の実現によって目指す姿） .....	22
3. 具体的な事業と重要業績評価指標（KPI） .....	23
基本目標4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する .....	25

1. 数値目標 .....	25
2. 基本的方向(施策の実現によって目指す姿).....	25
3. 具体的な事業と重要業績評価指標(KPI) .....	26
<b>IV. 市総合戦略の推進 .....</b>	<b>28</b>
1. 市総合戦略の推進 .....	28
2. 他団体等との連携.....	28

# I. 柏市地方創生総合戦略の策定について

## 1. 柏市地方創生総合戦略について

「我が国で急速に進む人口減少に歯止めをかけ、東京圏への人口集中を是正し、地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持する」ことを目指し、国はその基本法的位置付けとなる「まち・ひと・しごと創生法」（以下、創生法という。）を、平成26年9月末の閣議決定、11月21日の参議院の可決により、平成26年法律第136号として、創生法が成立しました。そして、人口減少克服・地方創生のための我が国の5か年戦略である「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「国の総合戦略」という。）と、我が国の人口問題についての将来の展望を示す「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」（以下「長期ビジョン」という。）も、12月27日に閣議決定されました。

柏市の人口は市制施行後、一貫した増加傾向にあるものの、平成以降は一桁台の増加率に留まっています。今後、全国的に更なる人口減少が進む中で、柏市が今後も変わらず活気にあふれ、選ばれ続けるまちであるためには、そのための積極的な取組が必要です。その認識のもと、国の地方創生の動きを踏まえ、「柏市地方創生総合戦略」（以下「市総合戦略」という。）を策定し、取り組むこととしました。

## 2. 位置付け

市総合戦略は、創生法第10条に基づく「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」の位置付けとなります。

## 3. 国・千葉県の総合戦略との関係

### (1) 国の総合戦略との関係

国は、2060年までの「長期ビジョン」を策定し、平成27（2015）年度を初年度とする5か年の政策目標や施策の基本的方向、具体的施策をまとめています。よって、市総合戦略では、国の総合戦略の基本的な考え方や基本方針などを基に市総合戦略を策定し、地方創生の取組を進めます。一方、市総合戦略の実現に向けた事業の展開は、国の施策展開によって大きな影響を受けることから、国の動向を注視しながら適切に対応していくこととします。

図表- 1 国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」(2015 改訂版)の概要

<p>I. 基本的な考え方</p> <p>1. 人口減少と経済縮小の克服</p> <p>2. まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立</p> <p>II. 政策の企画・実行に当たっての基本方針</p> <p>1. 従来の政策の検証</p> <p>2. まち・ひと・しごとの創生に向けた政策5原則 (1)自立性, (2)将来性, (3)地域性, (4)直接性, (5)結果重視</p> <p>3. 国と地方の取組体制とPDCAの整備 (1)データに基づく国の「総合戦略」と「地方版総合戦略」, (2)産官学金労言の連携推進, (3)政策間連携の推進, (4)地域間連携の推進</p> <p>III. 今後の施策の方向</p> <p>&lt;政策の基本目標&gt;</p> <p>基本目標① 地方における安定した雇用を創出する</p> <p>基本目標② 地方への新しいひとの流れをつくる</p> <p>基本目標③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる</p> <p>基本目標④ 時代に合った地域をつくり, 安心な暮らしを守るとともに, 地域と地域を連携する</p>
--

(2) 千葉県総合戦略との関係

市総合戦略の目標設定や施策の方向性に関しては, 千葉県総合戦略を勘案し, その整合を図りながら策定・改訂を行います。

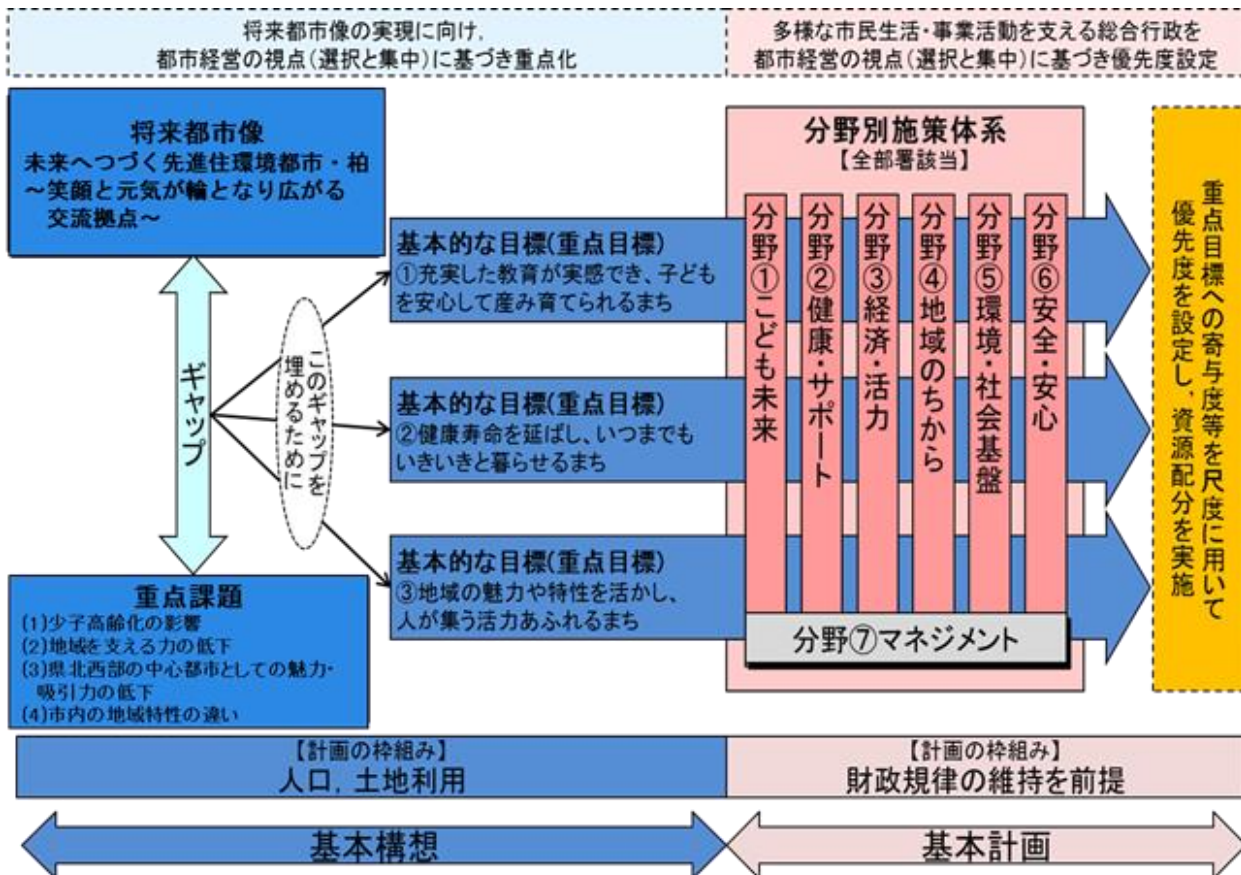
図表- 2 千葉県総合戦略の概要

<p>総合戦略 I 東京オリンピック・パラリンピックを契機とした「世界中から人々がやってくる CHIBA」づくり</p>
<p>総合戦略 II 地方創生の実現に向けた千葉づくり</p> <p>(1) “一人ひとりの働きたい”がかなう千葉づくり</p> <p>(2) “国内外の多くの人々が集う”魅力あふれる千葉づくり</p> <p>(3) “それぞれの結婚・出産・子育ての希望”がかなう千葉づくり</p> <p>(4) “安全・安心な暮らし”がかなう千葉づくり</p>
<p>総合戦略を支える 4 つの基本的視点</p> <p>(1) 中長期的かつ総合的な取組</p> <p>(2) 千葉を愛し, 時代を担うひとを育む取組</p> <p>(3) 本県の特長や強みを生かした取組</p> <p>(4) 地域間の連携した取組</p>

#### 4. 柏市第五次総合計画との関係

市政運営の基本方針である柏市第五次総合計画（以下「総合計画」という。）は、平成37年度までの基本構想と、その前期5か年の平成32年度までの基本計画による2層で構成されます。

図表-3 柏市第五次総合計画の概要

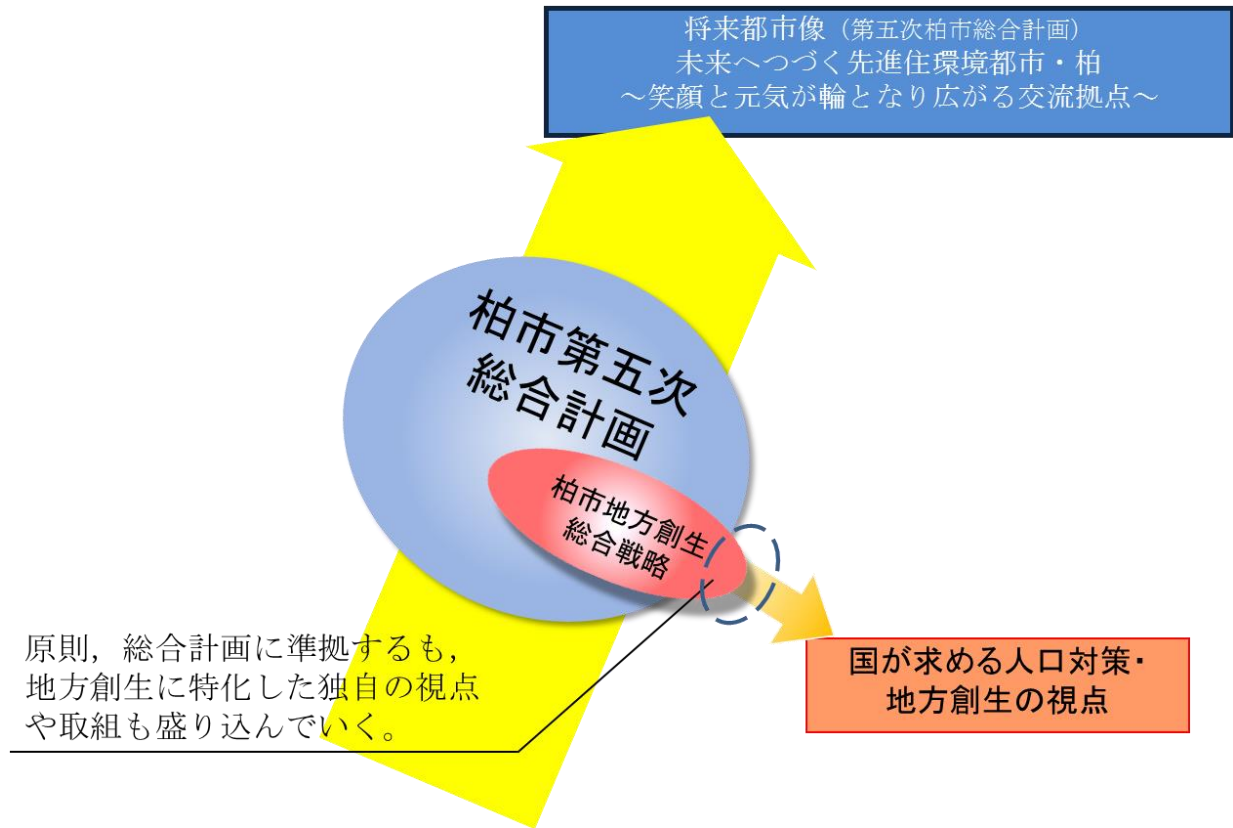


柏市ではこの総合計画を最上位計画として市政を運営していくため、市総合戦略も、総合計画が定める将来都市像「未来へつづく先進住環境都市・柏～笑顔と元気が輪となり広がる交流拠点～」と同じ方向を目指すものです。

ただし総合計画に位置付けられていなくても、人口減少の克服・地方創生に資する場合は、新たに取組む事業を市総合戦略に位置付けることが求められています。

そのため市総合戦略は、総合計画の将来都市像の実現に向け、人口減少の克服・地方創生の観点から、総合計画で位置付けられた施策を基本に、新たに取組むことが望ましい事業を加えて再編・策定するものです。さらに今後は、総合計画との整合性を確保しながら一体となって、市政を運営します。

図表 - 4 総合計画と市総合戦略の関係のイメージ図



## 5. 取組期間

平成 27 年度から令和 2 年度までの 6 年間とします。



## Ⅱ. 柏市人口ビジョン（要約）

### Ⅱ-1. 人口動態に関する現状・課題と影響

#### 1. 人口動態の現状

##### (1) 柏市の総人口の推移

平成 22 年国勢調査の人口は 404,012 人となっています。しかし、現在も総人口は増加しているものの、平成以降の増加率は低下しており、千葉県北西部 13 市で増減率を比較すると、平成 17 年から平成 22 年では 6 位（6.1%）となっています。

##### (2) 自然動態（出生・死亡）の状況

平成 17 年から平成 22 年の出生の状況を見てみると、平成 22 年の出生数は 3,662 人で最も多く、その後はやや減少しつつあります。

合計特殊出生率<sup>1</sup>は、平成 23 年の 1.33 まで上昇してきましたが、それ以降は横ばいで推移し、平成 25 年は 1.31 となっており、隣接する流山市（1.50）、松戸市（1.36）よりも低くなっています。

一方、死亡は平成 23 年以降 2,900 人以上となっており、自然動態は依然プラスとはなっているものの、その増加数は減少しつつあります。

##### (3) 社会動態（転入・転出）の状況

平成 17 年から平成 22 年の移動（転入・転出）の状況を見てみると、平成 22 年では 1 千人～4 千人の転入超過で推移してきたものの、平成 23 年の東日本大震災以降、2 年間にわたり転出超過となりました。しかし、平成 26 年は 1,923 人の転入超過となり、東日本大震災前の水準に戻りつつあり、「まだ単身世帯と思われる 20 代前半」と、「世帯形成・子育て期の年代及び、その子どもにあたる 0 歳代」で流入超過となっています。一方、転出の多い世代についても同様な傾向が見られます。

また地域別に転入元・転出先の状況を見てみると、柏市は県内他市町村や茨城県から人口が流入し、東京都に流出するという構造になっています。なお、県内に限定して見てみると、松戸市、流山市の 2 市が転入・転出いずれもそれぞれ 1,000 人を超えており、うち、上位 10 市について柏市が転出超過となっているのは、流山市、船橋市、白井市となっています。

以上の転入・転出の背景について「柏市転入者・転出者等調査（平成 27 年実施）」で見ると、柏市の転入者については就業・結婚・出産等のライフステージの変化、住宅取得行動が転入の背景にあるとみられます。一方、転出先の多くを占める近隣市への転出者の状況を見てみると、転出前後に家族構成の目

<sup>1</sup> 合計特殊出生率：「15～49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」で、一人の女性とその年齢別出生率で一生の間に産むとしたときの子どもの数に相当する。

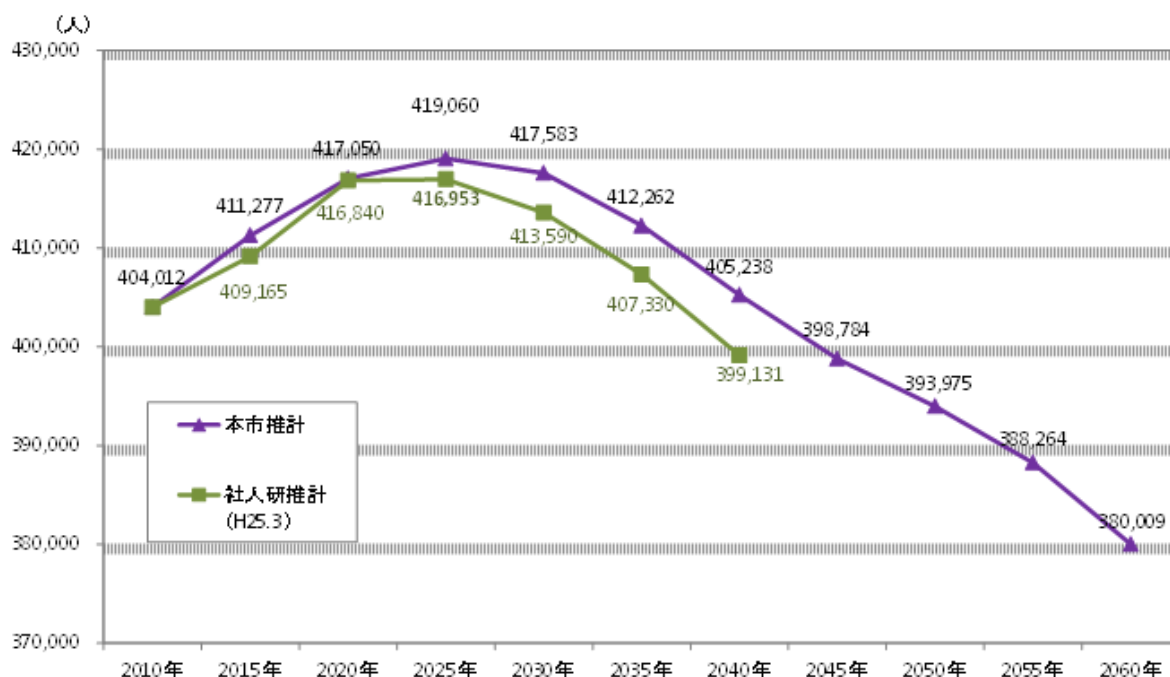
立った変化はなく，周辺で条件に合う物件があった等のより純粋な持家取得ニーズに基づいた行動と考えられます。

また，転入者の勤務先を見てみると，柏市内を含む県内勤務者と都内勤務者の割合はともに3割台であり，柏市は「都内勤務者向け」と「県内近隣市勤務者向け」の2面性を持つベッドタウンであることがわかります。

## 2. 将来人口推計

柏市の総人口は2025年に419,060人でピークとなり，それ以降本格的な減少局面に入り，2060年には380,009人になると見通されます。

図表- 5 柏市の将来人口推計



## 3. 人口動態の影響

今後，人口が減少すると例えば以下のような影響が想定されます。

### (1) 住民生活への影響

年少人口の減少によって小中学校施設の見直しが必要となります。また，校区の再編に伴い，地域コミュニティの再編も必要となる可能性があります。

### (2) 地域経済への影響

生産年齢人口の減少が見込まれる中，地域経済の活力を維持するため，女性や高齢者の雇用を進めることが重要です。

### (3) 行財政に与える影響

担税力の高い生産年齢人口の減少に伴う市税収入の減少と，後期高齢者の増加による民生費の増大により，市財政の逼迫が予想されます。

## II-2. 人口の将来展望

### 1. 課題

柏市の課題を整理すると、次の3つがあげられます。

- (1) 出生率が低い
- (2) 子育て世帯の流出
- (3) 子どものいない若年層が都内に転出している

### 2. 目指すべき方向性

現在の活力を将来にわたっても維持し続けるためには、柏市が目指すべき方向性として次の3点が特に重要となります。

- (1) 安心して産み育てることができる環境の整備と支援を行うことで、出生率を上げ出生数を増加させる
- (2) 良好な居住環境・子育て環境を整備することで、子育て期にある世帯の近隣市への流出を食い止め、流入を促進する
- (3) 魅力ある都市機能の整備や単身世帯にとって良好な居住環境を整備することで、若年単身層の流出を食い止め、流入を促進する

### 3. 人口の将来展望

人口動態の現状や将来人口推計の結果などを背景に、今後、市総合戦略の取り組みを進め、次の条件で仮定した場合、人口の将来展望を示しました。

○社会増減の状況：基本的には2005年→2010年の状況が続く。

○合計特殊出生率：2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所で用いられた中位推計値と同じ値で向上。

人口の将来展望：2060年まで、現状の人口規模水準である41万人程度を維持

## Ⅲ. 柏市地方創生総合戦略

東京都心部からのアクセスに恵まれた柏市では、子育て期世代を中心に首都圏各地からの人口流入も進み、人口の増加は続いています。

しかし、人口流入の鈍化傾向、合計特殊出生率も県平均を若干下回る状況等もあり、国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、平成37年頃の41万7千人をピークに人口は減少に転じると予測されています。さらに、1人当たりの医療・介護等の費用が増大する後期高齢者人口は、いわゆる団塊の世代が全て75歳以上となる平成37年には平成22年と比較して2倍以上になると予測されています。

本市は、柏駅を中心に商業施設が集積し、周辺自治体からも買い物客が訪れる等、活気のあるまちとして栄えてきました。また、大規模な工場や工業団地も開発されており、首都圏のベッドタウンでありながら、産業・労働の場でもあります。近年では、つくばエクスプレスの開通とあわせて北部地域に新しい人の流れが生まれたことや環境未来都市等の先進的な取組も進む一方で、東部地域には昔ながらの田園風景が広がり、首都圏の農産物供給地でもあるというさまざまな顔をもち、そうした豊かさを背景に発展を続けてきました。

しかし、周辺自治体にもさまざまな商業・産業が生まれ、人の流れにも変化が生じてきていることから、本市の状況や強みを踏まえ、市総合戦略では、「行きたい 住みたい・選ばれ続けるまち・柏市」であることを目指します。

将来展望 : 行きたい 住みたい・選ばれ続けるまち・柏市

### Ⅲ-1. 市総合戦略で目指す姿と構成

#### 1. 目指す姿

##### (1) 地方創生に向けての視点

###### ① 住みたい、住み続けたいまち

柏市の場合、全国と比較して人口減少に転じる時期は遅いものの、その時期はやがて確実に訪れると考えられます。そのとき、現在の優位性を保ちつつ人口減少のインパクトを極力軽減するための積極的な取組と、力を蓄えることが必要です。また、人の流れが変化してきている状況から、柏市の魅力があらためて人々に対して評価されるような取組が必要です。

柏市は子育て期の人々の流入も多く、出生率の向上とあわせて転入者増が重要であることから、継続的な転入の促進と拡大が必要です。そのためには、柏

市の魅力を強く発信し、さらに多くの人々から住みたいまちとして選ばれ続けることが必要です。また、柏市からの転出先には周辺自治体も多くみられることから、柏市を中心とする地域に愛着を感じながらも住宅取得行動から市外に流出している人々の存在が考えられ、その中には子育て期の人々も多く含まれています。そのため、一度地縁が生じた人々にさらに柏市に愛着を感じてもらおうとともに、柏市に住み続けるための定住促進の取組が必要です。

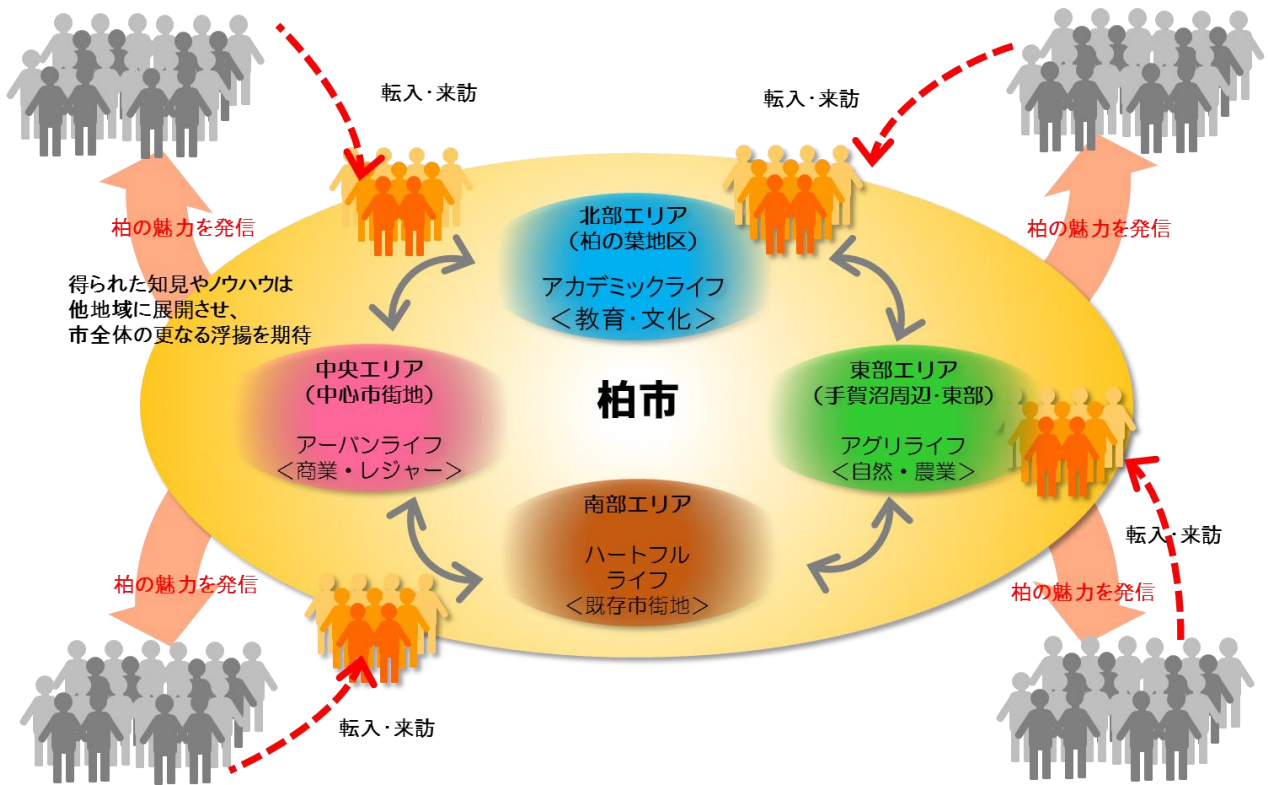
さらに、人の流れである交流人口の増加のためには、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした、柏市の魅力を世界に発信するための取組を進める等、新たな柏市の魅力を発見し、訪れてもらうことが重要です。それは、定住促進のきっかけともなる柏市への馴染みや愛着にもつながるため、交流人口増加に取組んでいくことも必要です。

## ②多様な価値観に基づくライフスタイルを実現できる柏市の魅力

柏市は、商業・工業・良質な住宅地・豊かな自然・学園都市という多様性を持つ稀有なまちであり、環境未来都市等の先進的な取組によって、国内のみならず海外にもその知名度をあげつつあります。また、こうしたまちづくりに公民学が連携して取組んでいることも、柏市の大きな魅力の一つです。しかし、柏市の特徴でもある豊かな多様性が、柏市の魅力や個性を見えにくくしている可能性も考えられます。

一方、柏市転入者・転出者等調査では、利便性や住みやすさを評価する声も高く、柏市に住んだ人々の多くが住みやすさを実感しています。住みやすさを感じる視点は一人ひとり異なるものですが、その評価が高いということは柏市のバランスの取れた多様性と、多様な住み方・ライフスタイルの提示が可能であることを示しています。ゆえに、柏市はその選択可能な多様性をまちの個性として明確に提示しつつ、さまざまなライフスタイルが選択可能であることをショーケースのように発信していくことが必要となります。

図表- 6 柏市の多様性を発信し、人を呼び込む



また、交流人口の増加の場合、継続的に訪れてもらうということが必要です。そのためには、人々の生活に即し、馴染み・愛着を持ってもらえる内容であることが望ましいと考えられます。

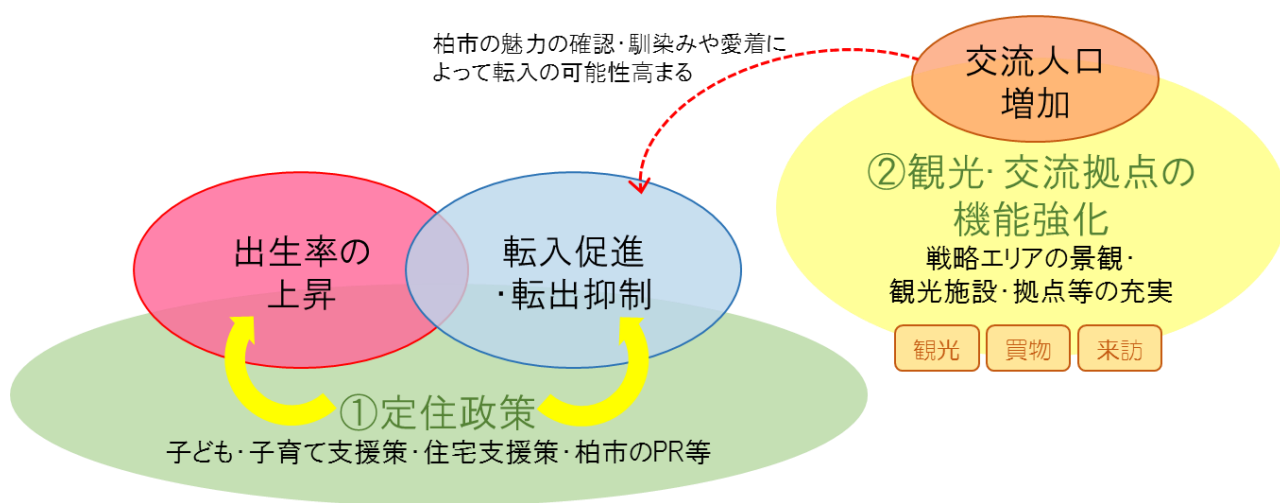
以上の取組に際しては、柏市内の自然景観や史跡などの有効活用や公民学連携によるまちづくりを進めることで、その実現性を高めます。

## (2) 重点的に取り組むべきこと

### ① 定住促進の仕組みづくりと継続的な訪問者を中心とする交流人口の増加

以上から、国の示す4つの基本目標の中でも、柏市の場合は「基本目標② 地方への新しいひとの流れをつくる」ことの達成が、さらなる転入促進・交流人口の増加に寄与すると考えられます。また、転出者の抑制もあわせて課題であることから、定住促進の視点が重要となります。この定住促進と交流人口の増加が、市総合戦略の中でも最重要であり、重点的に取り組むべきものです。

図表-7 市総合戦略で重点的に取り組むべきこと



定住促進のためには、柏市に住んでみたいと感じる魅力や興味のほかに、実際に住むことができるという仕組みづくりが必要です。柏市への転入者は結婚や出産を機に住み替えを行っていること、転入・転出の背景には住宅購入行動があることから、単なる良質な住宅供給だけではなく、子育てを支援する体制とそのアピールの強化、住宅価格帯・環境・ライフスタイル等、人々の幅広いニーズにあわせた住宅のストックと提示、さらには柏市の魅力である多様性を背景とするさまざまな住まい方の提示という、定住促進のためのさまざまな具体的な方策を進めていきます。そして、以上の実現に際しては、市内不動産業界、開発事業者等と協働で取り組みます。

交流人口を増加させる場合、単に一度来るだけの人々を増やすのではなく、継続的に柏市に訪問をしてくれる、いわば「ファン」をどれだけ作れるかという視点で取り組むことが重要です。そのためには、何度も訪れたいと考える良い環境であると同時に、訪れるだけの動機が明確に訪問者の中に根付いていることが必要です。そのためには、イベント性だけではなく、人々の日々の生活や余暇活動等に組み入れることができる内容であることが望まれます。



## ② 重点的に活用すべき資源

手賀沼周辺・東部地域は、市街地から近い中にも豊かな自然を残し、古くからの史跡もあり、スポーツやキャンプ等の環境も整っていることから、現在も市及び周辺地域の人々の余暇活動の場となっています。また、柏市の魅力の一つである農産物も道の駅などの直売所で販売されており、多くの人々で賑わっています。

また、この地域には手賀沼とその周辺の農地及び、斜面林等の地域資源や手賀教会堂、手賀城跡等の史跡、手賀沼の内水面漁業における拠点である手賀沼フィッシングセンターや農業を活かした収穫体験農園等の観光資源も点在しています。都市近郊としては貴重な都市農村交流地域として大きな可能性を秘めていることから、これら観光・自然・史跡等の各資源を強化し、ネットワーク化を図ることで、この地域全体の回遊性や観光化を進め、交流人口の増加につなげることが可能であると考えます。

また、手賀沼周辺・東部地域の交流拠点である道の駅の機能強化を図ることは、柏市の重要な産業の一つである農業の振興にも寄与します。農業の持つ多面的な機能は、来街者や地域住民にとっても他にはない魅力の一つであり、転入者をはじめとする居住者にとっても享受すべきものとしてとらえられると考えます。



## 2. 構成と体系

### (1) 構成と目標の設定

#### ① 構成

市総合戦略は、目指す姿である「行きたい 住みたい・選ばれ続けるまち・柏市」の下に、4つの基本目標が設定されています。この4つの基本目標は、国が総合戦略で示した「地方への新しいひとの流れをつくる」、「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」、「地方における安定した雇用を創出する」、「時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する」を踏まえて設定しています。

そして、この基本目標の達成に向けてどのような事業を推進していくかを示しているのが、基本目標の下にある「基本的方向」です。基本的方向の下には、計画期間である5年間において実施していく事業が設定されています。

#### ② 数値目標・重要業績評価目標（KPI）の設定

基本目標については、基本的方向性によって達成のために5年間取組んだ結果に対する数値目標を設定しています。また、基本的方向についても、その中で実施する具体的な事業の実施効果の確認を行うため、重要業績評価目標（KPI）<sup>2</sup>を設定しています。

図表-8 市総合戦略の構成

基本目標1	基本的方向1	事業1 <sup>*</sup> ・事業に基づき実施される個別事業
		事業2 <sup>*</sup> ・事業に基づき実施される個別事業
	基本的方向2	事業1 <sup>*</sup> ・事業に基づき実施される個別事業
		事業2 <sup>*</sup> ・事業に基づき実施される個別事業
基本目標2	基本的方向1	事業1 <sup>*</sup> ・事業に基づき実施される個別事業
⋮		
⋮		

国の総合戦略  
を踏まえて設定

**数値目標  
の設定**

基本目標達成  
に向けて設定

**重要業績評価  
目標の設定**

基本的方向を具体的に実施  
していく事業・各個別事業

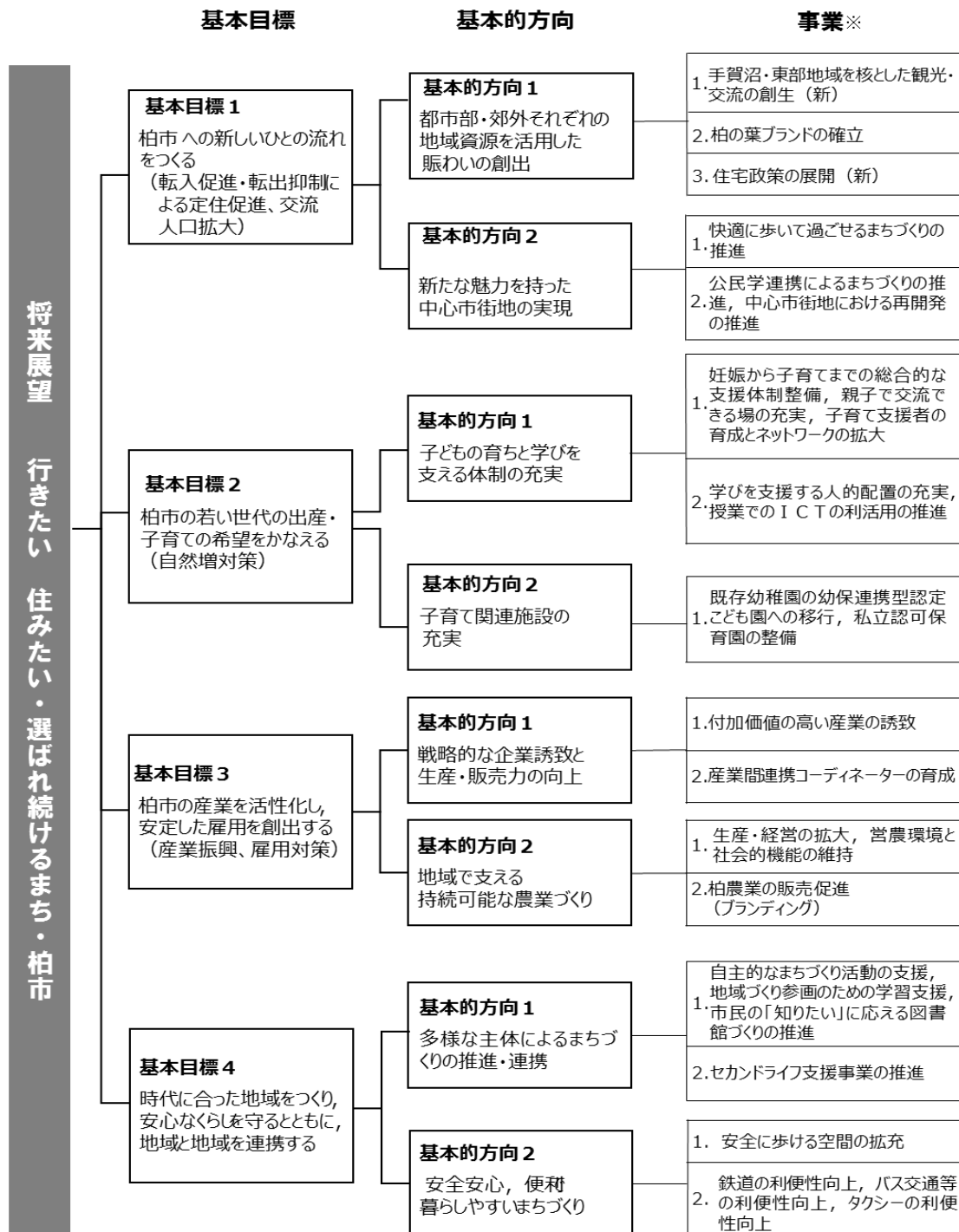
※事業とは、総合戦略の手引の「施策」に該当するもの。

<sup>2</sup> 重要業績評価指標（KPI）：Key Performance Indicatorの略称であり、進捗状況を検証するために設定する指標を言う。

## (2) 市総合戦略の体系

市総合戦略では、次のように基本目標と基本的方向を定め、取組を行います。特に、「基本目標 1 柏市への新しいひとの流れをつくる」を重視し、転入促進・転出抑制による定住促進と交流人口の拡大を重点的に進めます。

図表- 9 柏市地方創生総合戦略の体系



※本市総合戦略における「事業」とは、国の地方版総合戦略策定の手引きにおける「施策」に該当するものです。また、地方創生に特化した視点の新規事業は(新)と記載。

### Ⅲ-2. 市総合戦略の基本目標

#### 基本目標1 柏市への新しいひとの流れをつくる

##### 1. 数値目標

指標の名称・内容	基準値	目標値
純移動数(転入者数－転出者数) 【千葉県毎月常住人口調査】	H26年度 1,923人	R2年度 3,000人
市内主要観光エリア流動人口 【地域経済分析システム】	H27年度4月休日 2,346,500人	R3年度4月休日 2,700,000人
市内に立地する駅(JR・東武・TX市内全11 駅)の1日平均乗車客数の合計 【柏市統計書】	H25年度 297,968人	R2年度 300,000人

数値目標やKPIについては、R3年3月31日により近い時期に実施した調査結果を目標値とみなす場合がある。以下同じ。

##### 2. 基本的方向(施策の実現によって目指す姿)

基本目標1では、市外部からも評価される「柏市の魅力」を大きく形作っている市内北部・中心部・東部の地域資産を最大限に活用してまいります。こうした拠点を通してまずは人を呼び込み、全市に及ぶ交流人口の創出、転入促進と転出抑制による経済やまちの活力の維持・発展を目指します。

柏市の転入・転出の特徴としては、近隣自治体間での移動が特徴的にみられます。そのため転入促進のためには、一過性のイベントではない恒常的な交流の仕組みづくりとあわせ、それを契機とする転入意向を実現させるための受け皿となる住環境の整備も重要となってきます。さらに、柏市が持つ都市部・郊外の特徴とその多様性を提示し、アピールすることで、その人の希望に合わせたライフスタイルや住まい方が選択可能であることを示すことも必要であり、そのことは結果として転出抑制にも大きく寄与するものと考えます。

このことから、新たな魅力を持った中心市街地の実現とあわせ、都市部・郊外それぞれの地域資源を活用した賑わいの創出を進めることで、柏市への新たな人の流れと、まちへの愛着の高まりによって定住人口の増加を目指します。

### 3. 具体的な事業と重要業績評価指標(KPI)

#### (1) 基本的方向1 都市部・郊外それぞれの地域資源を活用した賑わいの創出

##### ① 基本的方向によって目指す姿

柏の葉キャンパス駅を中心とした新しいまち，手賀沼をはじめとする魅力的な地域資源を活かした東部地域などは，市内外から訪れる多くの人々で賑わっていて，千葉県北西部の中心的都市として活力が維持，向上しています。

##### ② 取組事業について

公民学連携によるまちづくりと情報発信により，北部地域のブランド化（住民や企業に選ばれるまち）を更に進めてまいります。

また，手賀沼・東部地域にある地域資源や魅力を活用すべく，その整備と情報発信を進めながら，市内全体に波及する長期的な交流施策や定住施策を進めてまいります。

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値
手賀沼・東部地域流動人口 【地域経済分析システム】	H27年度4月休日 661,300人	R3年度4月休日 760,000人
柏の葉地区の定住人口 【北部整備課調べ】	H30年度10月1日現在 13,269人	R2年度10月1日現在 14,045人
住宅支援制度数 【企画調整課調べ】	H27年度 1制度	R2年度 3制度

事業	取り組み内容	主管課	区分※
1. 手賀沼・東部地域を核とした観光・交流の創生(新)	手賀沼・東部地域への訪問者を増加させるとともに，その継続性を図ります。そのため，スポーツ・自然・農業・歴史文化等のイベントや観光を通じて，手賀沼と東部地域の地域資源や魅力をより活かすため，その拠点となりうる施設整備や各箇所・施設のネットワーク化・情報発信等を行います。	環境政策課 商工振興課 農政課 都市計画課 公園緑政課	3-1-3 -1.2
2. 柏の葉ブランドの確立	人々が住みたい・働きたいと思うまち，また企業に選ばれるまちをつくるため，質の高い都市空間を醸成し，柏の葉が「先端企業が集まるまち」，「職住近接が実現できるまち」というイメージを確立します。	北部整備課	3-1-2 -2
3. 住宅政策の展開(新)	柏市に住んでみたい，ライフスタイルが変化しても柏市に住み続けたい，こんな住み方をしてみたい，という願いがかなうよう，民間事業者等と連携して定住化政策を進めます。	都市計画課 住宅課 下水道整備課 環境政策課	新

※柏市第五次総合計画に位置付けられている場合の番号

## (2) 基本的方向2 新たな魅力を持った中心市街地の実現

### ① 基本的方向によって目指す姿

市民や民間企業，教育・研究機関，行政などが協力しながらまちづくりに取り組んだ結果，中心市街地には多くの人が訪れ，長く滞在したくなる魅力あふれる空間が作られています。

### ② 取組事業について

来街者数の増加，滞在時間の延長など，まちの活力の維持・向上を図るため，多くの人が訪れ，安心して快適に過ごすことができるまちづくりを進めます。

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値
歩行者通行量 【中心市街地活性化基本計画に係る調査】	H26年度3月休日 181,471人	R2年度3月休日 190,545人

事業	取り組み内容	主管課	区分※
1. 快適に歩いて過ごせる まちづくりの推進	歩きやすい空間のネットワーク化を実現し，来街者が快適に過ごせるようにするため，駅周辺道路の整備及び歩行者優先化を推進します。	中心市街地 整備課	3-1-1 -1
2. 公民学連携によるまち づくりの推進  中心市街地における再 開発の推進	魅力あるまちをつくるため，公・民・学の連携体制を構築し，安全で快適な都市環境の形成，集客力の向上，地域経済の活性化及び生活文化の創造等の活動を行います。 また，中心市街地における交流人口増加や定住促進を図り，将来の活力をより効果的に維持・向上させるため，商業・オフィス・医療・文化などの様々な機能の集積や，エネルギー・マネジメントなど環境にも配慮した持続可能なまちを目指します。	中心市街地 整備課	3-1-1 -2,3,4

※柏市第五次総合計画に位置付けられている場合の番号

## 基本目標2 柏市の若い世代の出産・子育ての希望をかなえる

### 1. 数値目標

指標の名称・内容	基準値	目標値
合計特殊出生率 【千葉県健康福祉部】	H26年度 1.29	R2年度 1.35
年少人口(0～14歳) 【住民基本台帳】	H26年度10月 53,911人	R2年度10月 53,424人
妊娠・出産について満足している者の割合 【柏市母子保健計画/健やか親子21】	H28年度 69.3%	R2年度 70.0%

### 2. 基本的方向(施策の実現によって目指す姿)

基本目標2では、出産・子育てに伴う課題や不安の解消と、子どもを大切に育み、その成長を促すための取組を行うことで、子育て世帯の支援と、次世代を担う子どもたちの健やかな成長を目指します。

子どもから高齢者まで多くの人が集まり、住み、各年代によるバランスのよい人口構成が形成・維持されることで、持続可能なまちづくり。しかし少子高齢化が進む社会では、飛躍的に出生率・出生数が向上し、年齢構成の適切なバランスが達成・維持されることは難しいと考えられます。そのため、これから子どもを持ちたいと考える世帯だけではなく、既に子どもを持つ子育て世代の出産・子育てにまつわる課題や不安を解消させることで、例えばもう一人ほしい・育てたいという気運を醸成することも有効であると考えます。このような取組は、出生率の改善だけではなく、既に子どもを持つ子育て世帯に柏市への転入意向を持ってもらうためにも効果的です。

以上から、子どもの育ちと子育てを支える体制の充実や乳幼児期の教育・保育関連施設の充実に取り組む、安心して子どもを産み・育てられるまちづくりを進めます。

### 3. 具体的な事業と重要業績評価指標(KPI)

#### (1) 基本的方向 1 子どもの育ちと学びを支える体制の充実

##### ① 基本的方向によって目指す姿

妊娠から子育てまでの総合的な支援体制が整備されていることで、安心して子どもを産み・育てられる環境がつくられており、子どもの保護者が喜びや生きがいを感じながら子育てをしています。

また、より多くの市民の理解・協力と横のつながりのもと、子どもの育ちや学びが地域全体で支えられています。

##### ② 取組事業について

妊娠・出産・子育てに対する不安や負担の軽減を図るため、妊娠・出産期から子育て期までの様々な状況に応じた、切れ目のない支援体制を構築します。

さらに、地域で、子育て家庭が孤立せず、前向きに子育てや教育にあたることのできるよう、子どもに関する様々な社会資源の構築や、相互のネットワークづくりを推進します。

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値
地域活動・ボランティア活動に参加したい人のうち、参加したい活動内容として「子育て支援活動」を挙げた人の割合 【柏市まちづくり推進のための調査】	H24 年度 12.6%	R2 年度 14.3%
子育て仲間が「いない」と回答した割合 【柏市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査】	H25 年度 16.9%	R2 年度 14.3%
「教育環境の充実」に対する市民満足度 【柏市まちづくり推進のための調査】	H28 年度 29.7%	R2 年度 34.0%

事業	取り組み内容	主管課	区分※
<p>1. 妊娠から子育てまでの総合的な支援体制整備</p> <p>親子で交流できる場の充実</p> <p>子育て支援者の育成とネットワークの拡大</p>	<p>子ども及びその保護者、妊娠している方に対する教育・保育・保健その他の子育て支援の円滑な利用と、不安や負担の軽減を図るため、妊娠期から子育て期までの様々な状況に応じた総合相談及び支援を実施します。</p> <p>併せて、子育ての当事者である乳幼児の保護者同士が支え合い、子ども同士も育ち合う関係をつくることのできるよう、親子が出会い、交流できる場を充実させます。さらに、地域における子ども・子育て支援の質の向上と横の連携による基盤強化を図るべく、子育て支援者・団体の育成やネットワークづくりにも取り組みます。</p>	<p>子育て支援課 地域健康づくり課 保育運営課 こども福祉課 地域医療推進室 中央公民館</p>	<p>1-3-1 -1,2,4 1-4-1 -1 2-2-4 -1</p>
<p>2. 学びを支援する人的配置の充実</p> <p>授業でのICTの利活用の推進</p>	<p>学びの質の向上を図るべく、地域における横の連携と環境整備を図ってまいります。</p>	<p>学校教育課 指導課 教育研究所</p>	<p>1-1-1, 2,5</p>

※柏市第五次総合計画に位置付けられている場合の番号



## (2) 基本的方向 2 子育て関連施設の充実

### ① 基本的方向によって目指す姿

子ども同士が健やかに育ちあい、また、保護者同士も支え合いながら子育てができる環境が整い、様々な人との豊かな関わりによる育ち・子育てがなされています。

### ② 取組事業について

安心して子どもを育てる、子どもが育つ環境をつくるため、既存幼稚園の幼保連携型認定こども園への移行と私立認可保育園の整備を進めます。

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値
認可保育園等の入園保留者数 【保育整備課調べ】	H27 年度 41 人	R2 年度 0 人

事業	取り組み内容	主管課	区分※
1. 既存幼稚園の幼保連携型認定こども園への移行  私立認可保育園の整備	入園保留者のさらなる減少を図るため、既存幼稚園の幼保連携型認定こども園への移行と私立認可保育園の整備を進めます。	保育整備課 保育運営課	1-3-2 -1,2

※柏市第五次総合計画に位置付けられている場合の番号

## 基本目標3 柏市の産業を活性化し、安定した雇用を創出する

### 1. 数値目標

指標の名称・内容	基準値	目標値
市内従業者数 【経済センサス】	H24 年度 132,541 人	R2 年度 140,000 人
市内事業所数 【経済センサス】	H24 年度 11,588 件	R2 年度 12,000 件
荒廃農地面積 【荒廃農地調査】	H30 年度 5,088 アール	R2 年度 4,788 アール

### 2. 基本的方向(施策の実現によって目指す姿)

基本目標3では、地域の産業力を高めることで、経済・活力・市民サービスをより充実させていくことを目指します。

柏市第五次総合計画の将来都市像「未来へつづく先進住環境都市・柏～笑顔と元気が輪となり広がる交流拠点～」を実現するためには、今後、経済の低成長が見込まれる中、足腰の強い経済基盤とまちの活力を維持し、人を呼び込む工夫が不可欠です。よって、戦略的な企業誘致と生産・販売力の向上に取り組めます。

柏市の特徴的な産業の一つである農業については、その事業環境の整備を進め、基盤を強化することで、より一層の事業の安定化と生産品の質の向上・差別化を進めることが必要です。よって、生産から加工までをも取組の視野に入れ、農業以外の産業とも連携することで、柏市農業のアピールと差別化に取り組む、地域で農業を支えていく体制づくりを進めてまいります。

### 3. 具体的な事業と重要業績評価指標(KPI)

#### (1) 基本的方向 1 戦略的な企業誘致と生産・販売力の向上

##### ① 基本的方向によって目指す姿

地域の資源，特性を活用した戦略的な企業誘致が進められ，企業の立地先として柏市の北部地域などが注目を浴び，また産業間の連携によって新たな商品・サービスが開発されるなど，産業全体の活性化が図られています。

##### ② 取組事業について

地域経済の発展・拡大に好影響を与え，あわせて地域の雇用の拡大につなげることで，税収の向上を図り，付加価値の高い産業をピックアップし，ターゲットを絞り込んだ上で誘致活動等を行います。

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値
誘致企業数 【商工振興課調べ】	H26 年度 0 件	R2 年度 50 件
企業間連携のコーディネート数 【商工振興課調べ】	H26 年度 9 件	R2 年度 75 件

事業	取り組み内容	主管課	区分※
1. 付加価値の高い産業の誘致	研究所やハイテク工場などの税収面や雇用面などで優位な企業を誘致するため，地域の強み等を活かした戦略的な誘致活動を行います。また，併せて市内での創業支援と，商品開発や製造，販路開拓等事業経営の支援を進めてまいります。	商工振興課	3-2-1-1
2. 産業間連携コーディネーターの育成	産業間の連携を進め，新たな商品・サービスを生むなど，企業の生産力向上を図るため，企業や個人をマッチングし，新規サービス・事業を生む人材を育成します。	商工振興課	3-2-1-1

※柏市第五次総合計画に位置付けられている場合の番号

## (2) 基本的方向 2 地域で支える持続可能な農業づくり

### ① 基本的方向によって目指す姿

地域の特徴を活かした個性豊かな農業が営まれ、農家の経営力・生産力が高まっていて魅力ある地場産業となっています。

### ② 取組事業について

地域性を活かした農業を社会的、所得的に魅力ある産業とするため、農業の経営力・生産力を高め、地産地消や消費拡大を図ります。

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値
認定新規就農者 【農政課調べ】	H26 年度 4 人	R2 年度 10 人
農商工等連携事業計画の認定又は他産業との協働による商品化件数 【農政課調べ】	H26 年度 1 件	R2 年度 5 件

事業	取り組み内容	主管課	区分※
1. 生産・経営の拡大 営農環境と社会的機能の維持	農産物の高付加価値化や、農家の経営力・生産力を高めるため、農地の生産性の向上と経営力の強化を支援します。また、農地・農業が環境に貢献し、農業の役割と理解の促進を図るため、環境に配慮した農業や農地の多面的利用の推進を図ります。	農政課	3-2-3-1,2
2. 柏農業の販売促進 (ブランディング)	生産者・農産物と消費者の信頼関係構築と、交流機会を消費拡大につなげて、農業を魅力ある産業とするため、市内交流拠点である道の駅しょうなんの機能強化やあけぼの山農業公園の農業振興に向けた活用等を行います。	農政課	3-2-3-3

※柏市第五次総合計画に位置付けられている場合の番号

## 基本目標4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

### 1. 数値目標

指標の名称・内容	基準値	目標値
市内は住みやすいと考える市民の割合 【柏市まちづくり推進のための調査】	H28年度 84.1%	R2年度 85.0%
交通事故発生件数 【柏市統計書】	H26年度 9,878件	R2年度 9,000件
刑法犯認知件数 【柏市統計書】	H30年度 3,200件	R2年度 3,200件

### 2. 基本的方向(施策の実現によって目指す姿)

基本目標4では、まちづくりに取り組む人々や団体の育成・活動支援、そしてまちの安心な暮らしを守るための活動を進めることで、互助・共助による地域生活の充実と、それに人々が関わることで得られる魅力の再認識を通じて、地域への愛着や誇りの醸成に取り組めます。

地域課題の増加や多様化に対応するためには、行政だけではなく、地域で生活する市民が主体的に地域の身近な課題解決に取り組むことが必要であり、こうした地域力の強化は、持続可能なまちの形成のためにも不可欠です。

また、住みやすく快適なまちには、安全安心な空間と利便性の高い移動方法の確保が望まれます。これは柏市に暮らす人々の問題だけではなく、産業振興や雇用促進、交流人口の増加を図る際にも必要な事項となります。

以上から、住民主体のまちづくりの推進と、安全安心、便利で暮らしやすいまちづくりに取り組むことで、時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守ります。

### 3. 具体的な事業と重要業績評価指標(KPI)

#### (1) 基本的方向 1 多様な主体によるまちづくりの推進・連携

##### ① 基本的方向によって目指す姿

多くの市民が、コミュニティ・地域自治の意義や役割分担を理解し、町会やふるさと協議会などの地域組織に参加し、様々な地域活動が行われています。

まちづくりの担い手となる人材が後継者を育てながら、積極的に活動に取り組んでいます。また、より自発的・自立的な活動をしている地域団体があり、地域のまちづくりを担う先進モデル団体も存在しています。

##### ② 取組事業について

様々な地域活動が活発に行われるようにするため、地域で積極的に活動する団体を側面から支援するとともに、コミュニティ活動への取組が困難な市民についても、自ら課題解決を図れるよう支援します。

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値
柏市民活動団体数 【協働推進課調べ】	H26年度 280団体	R2年度 411団体
支援による就業決定者数 【福祉政策課調べ】	H26年度 42人／年間	R2年度 80人／年間

事業	取り組み内容	主管課	区分※
1. 自主的なまちづくり活動の支援  地域づくり参画のための学習支援  市民の「知りたい」に応える図書館づくりの推進	自主的に活発に活動する地域組織が、モデル地域として市内全域の地域活動を牽引していくため、地域課題に積極的に取り組む地域組織を支援します。 また、地域を支える人材を養成するため、地域の課題解決につながる学習機会を提供します。	地域支援課 生涯学習課 中央公民館 図書館 保健福祉総務課	4-1-1 -1 4-3-1 -1 4-3-2 -1
2. セカンドライフ支援事業の推進	高齢者が「やりがい」や「いきがい」を感じて、社会の支え手として活躍できるようにするため、高齢者の社会・地域参加を促進する環境整備を進めます。	商工振興課 福祉政策課	2-1-3 -1

※柏市第五次総合計画に位置付けられている場合の番号

## (2) 基本的方向 2 安全安心, 便利で暮らしやすいまちづくり

### ① 基本的方向によって目指す姿

まちを快適で安全に歩ける道路の整備や公共交通網, 良好な景観づくりなどの魅力ある都市空間づくりが進んでいて, 様々な人々が快適に過ごせる環境が形成されています。

### ② 取組事業について

市民が快適に利用できる交通体系や交通環境の整備を進め, 市内外の移動や交流をより円滑なものにしてまいります。

また, 安全性も高め, 交通渋滞や交通事故の少ないまちづくりを進めます。これらのことにより, 利便性の高いまちとして評価され, 定住促進やまちの賑わいなどを生み出します。

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値
柏市の住みやすい理由として「道路や公園などが整備されている」+「治安が良く安心できる環境がある」+「災害が起きても安心できる環境がある」と評価する割合の合計 【柏市まちづくり推進のための調査】	H28 年度 42.5%	R2 年度 43.5%
柏市の住みやすい理由として「公共交通機関が充実しているから」と評価する割合 【柏市まちづくり推進のための調査】	H26 年度 32.2%	R2 年度 37.0%

事業	取り組み内容	主管課	区分※
1. 安全に歩ける空間の充実	子どもから高齢者まで全ての市民が安心して外出し過ごすことができる環境をつくるため, 快適で安全な住環境を整備します。	地域支援課 道路整備課 道路維持補修室	5-3-2 -1,2
2. 鉄道の利便性向上 バス交通等の利便性向上 タクシーの利便性向上	市内外のアクセス性向上を図るため, 鉄道やバス等の公共交通機関の利用環境及び利便性の向上を一層促進します。	交通政策課 道路整備課	5-4-1 -1,2,3

※柏市第五次総合計画に位置付けられている場合の番号

## IV. 市総合戦略の推進

### 1. 市総合戦略の推進

市総合戦略の確実な実行と実効性を担保すべく、次のような体制によって推進と計画の進捗管理を行います。

#### (1) 確実な推進のための体制構築

市総合戦略の確実な推進のため、PDCA サイクルを通じた客観的な効果検証の実施が求められています。そのため、基本目標については実現すべき成果（アウトカム）に係る数値目標の設定が求められており、定性的な目標であった場合にも客観的な指標を設定することとされています。さらに、具体的事業には KPI を設定し、この基本目標の数値目標を基に実施した事業の効果を検証し、必要に応じて見直しを実行することで確実な推進をはかるとされています。

柏市では平成 28 年度より評価委員会を立ち上げ、進捗の評価と改善の方向性を得ることとします。

#### (2) 市総合戦略における PDCA サイクルの確立

毎年、市では事務事業評価（サマーレビュー）で前年度の執行状況等の事後点検を行い、事務事業の実施方法・内容等の改善を進めています。KPI を各事業に設定している市総合戦略の進捗管理については、平成 28 年度以降はこの事務事業評価の結果を勘案し、基本目標への貢献度等について毎年点検を実施します。

その結果、改善が必要と考えられる内容が生じた場合には、市総合戦略の見直しを実施していくことで、効果的な総合戦略を推進してまいります。また、各種取り組みの推進にあたっては、国の交付金等の財政的支援制度を積極的に活用します。

### 2. 他団体等との連携

#### (1) 国との連携

制度やより有利な財源、財政支援・人的支援・情報支援等の積極的な活用を進めることで、目標の達成を目指します。また、事業を進める上で望ましいと考えられる事項については、国への提案・要望等を行い、実現へと進めます。



## **(2) 千葉県との連携**

施策を進める上で必要な内容については、千葉県との協議を進め、連携、協働等の道筋も探ります。

## **(3) 他の市町村との連携**

地方創生の実現に際しては自治体が連携しての取組も必要とされていることから、周辺市町村、全国市長会、中核市市長会等との連携を強め、その推進を図ります。

## **(4) 民間企業・大学・NPO 等**

魅力あるまちづくりを進めるためには、行政のみならず、柏市内に存在する金融機関・デベロッパー・鉄道会社等の民間企業や、市内大学、まちづくりに係る NPO 等の市民団体と協働して進めていくことが望ましいことから、関連団体と連携し、市総合戦略の実現を目指します。

# 柏市地方創生総合戦略

策 定 平成 28 年 3 月

第 1 回改訂 平成 29 年 10 月

第 2 回改訂 令和元年 12 月

柏市 企画部 企画調整課